**6月10日　（株）大川印刷　代表取締役社長　大川　哲郎　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

普段、印刷業者さんのことについては全く意識することはないのですが崎陽軒のラベルなどの存在は印刷業者さん無しには作れないし、あのラベルがなかったらあそこまで崎陽軒の存在は広まっていないと思うので、広告が大きな意味を持つようになった現代において印刷業者さんは欠かせない存在だなと思いました。また、企業は５年で85％が消えるという話はとても驚きました。てっきり20年くらい続くと思っていましたが、20年続く企業は1000社に3社しかなく、0.3％だということで、私は普段、企業といわれたら何十年も続いている有名企業しか浮かばないので、世の中にはとてつもない数の企業が存在するのだなということを実感しました。そして「働く」という言葉は「働く」としてしか今まで捉えてきていなかったのですが「傍を楽にする」という意味があると一般的に言われているという話にも驚きました。様々な驚きを知るとともに勉強にもなりました。（経営学部経営システム科学科2年）

今まで、ベンチャーなど若い企業の社長さんのお話が多かったのですが、今回は１００年企業大川印刷の大川社長のお話で、いつもと話の内容や印象が違うように感じました。

自分の会社が本物であり続けるために、会社をどう想い、描いているかを知り、そして、そうやって長年社会に対して貢献してきた大川社長の言葉だからこその重みを感じました。

私は化学系の専門で、化学物質の安全や環境についても学んでいます。企業は価値を創り出すことが目的であり、その過程で発生する副作用(危険物など)は目を向けられないことが多く、被害が顕著化してから話題になることが多いです。各企業ごとに環境や状況が異なるため、リスクも様々なので大川印刷さんのように、活動されている企業をお手本として、社会にそういった危険性について広めていく科学者としての使命を果たせたら、と思いました。(理工学部・化学生命系学科１年)

「従業員に対して『地域や社会に必要とされる働き方をし、そんな人になろう』と伝えている。そういった働きかたをしている企業は絶対につぶれない」という大川社長の言葉がとても心に響きました。大学に入って経営を学びはじめて三か月、経営者というリーダーのなすべきことは、会社の統括を遠くから行うことではなく、自ら従業員に働きかけて従業員の働くことに対する“意欲”を変えて、みんなが同じ方向を向いて歩けるようにすることなのだと考えるようになりました。そして、それが大川社長のこの言葉にも表れているように思いました。また、実際にインターンをしている学生さんの生の声を聞けたこともよかったです。（経営学部　国際経営学科１年）

関東大震災の話を聞いて、震災の復興は元に戻すのではなく、未来への展望を描くことだ、ということも気づいた。（経営学部経営システム科学科１年）

　就職が目的ではなく、手段であるといわれてはっとした。大学受験の際は、入学がゴールではない、大学に入って将来のために勉学に励むことが大切だという考えを常に持ってはいたが、大学に入学してからは、大学でやりたいことを見つけ、やりたいことをできる会社に就職か起業をするということが目標であるような気がしていた。どの起業家さんも社長さんも仕事を通じて社会やそばの人の幸福を生み出そうとしていて、多くの方々のお話を聞けば聞くほど素敵だなと思った。(経営学部・経営1年)

今まで聞いていた講義は、新たに起業した方々でしたが、今日は伝統ある社会を引き継いだ大川さんだからこそのお話だったなと思いました。古い伝統を受け継ぐだけでなく、新しいことを始めるというのは伝統があればあるほど大変なことだと思いますし、実際に大変だと聞きました。今回の講義のなかで印象に残った言葉はたくさんありましたが、特に「自分が変わらないと他人は変わらない。自分が変われば相手も変わる。」という言葉です。これから先自分も色々と困難にぶつかるかもしれないし、人を変えたいと思うことがあるかと思いますが、その時まずは自分を見つめなおして変わろうとする姿勢が大切だと思い、心に刻みつけようと思いました。（経済学部　国際経済学科１年）

ノンVOCインキの存在を今日初めて知った。環境に優しく、地球に優しい環境・地球を配慮し徹底している事に対して素晴らしいと思う。印刷会社だから何もするのではなく、印刷会社だからできる事を考えだし、人に害のない優しい印刷物をするという事はなかなか出来る事ではないと思いました。印刷物の表示や使う物によって会社を変えるという大きい目標を持ちその目標を達成するために努力し続けている点は尊敬します。働くとは何かとは漠然と分かっているように思っているけど実際に深く考えると何も分かっていないという事を実感しました。失敗をする事で学べる物がたくさんあるという事を改めて知りました。何のために働くのかについて何のために働くのかについて今回の講義によって自分から意欲的に考えてみようと思います。手段の目的化しないという事、当たり前な事であるが実際にそうする事はなかなか難しいという事を知っているので手段の目的化しないように心がけようと思いました。存在価値、存在意義を問う事答えを見つける事は難しい事であるが、じっくり時間をかけて必ず答えを見つけ出したいと思いました。インターンシップについてもっと真剣に考えてみる。（経営学部　会計情報学科　１年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

地域貢献を目標としていきたいと思います。自分が大企業の一員として働くよりも中小企業の中でのびのびと働きたいというのが実は本当に自分が目指す手いる事だと最近考えるようになってきたので、自分が企業で何をやりたいのかという事を真剣に大学生活の間に考えていていきたいです。就職は目的ではなく手段であるという言葉を胸に自分の将来設計についてよく考えていきます。（経営学部　経営学科　１年）

　私はまだ１年生なので就活に関してはまだ全然知らないけれど、就職はゴールではなくてスタートだということを忘れずにおきたいです。実際就活が始まったら甘いことは言っていられないでしょうが、本質を見続けられるようにしたいです。また、すぐ出来ることとしては食にしろ、衣服にしろ、日用品にしろ、単に安いものを選ぶのではなく、本当に「良いもの」を見極めていければと思います。(教育人間科学部・人間文化課程1年)

　就職活動の際によく学生がつかう「必ず御社に貢献できると思います。」というフレーズも間違っていないが、「御社の仕事を通じて“社会”に貢献したい」というのが正しいのではないかという大川さんの考えにとても納得しました。今後自分が就職活動する歳になったときには自分がその会社を通じて社会に貢献できると思える会社を探そうと思いました。また、就職活動の際には「手段」と「目的」を混同しないようにすべきだとおっしゃっていたけれど、日頃の生活でも「手段」を「目的」化しないように心掛けていきたいです。

（経営学部経営学科1年）

授業スタッフの感想１

　この授業を受けてくうちに、ますます自分の進路に悩むようになった。お金を稼ぐことを目的とするのか、それとも社会貢献を優先して働くのか。よく、お金優先に考える人は良くないみたいな考え方があるが、それは違うと思う。しっかり責任を背負って、将来の家族の為に大企業でしっかり稼ぐ。これも十分素晴らしいと思う。でも今日の大川さんのお話を聞いて、社長と近い距離で働いて、自分の生まれ育った故郷に貢献をするということも本当に素晴らしいと思った。まだまだ悩む日々は続きそうだ……..。

授業スタッフの感想２

今回の大川さんの話で、「社会貢献」ということを意識したひとが増えたようです。

ただ働くのではなく、仕事を通じて社会に貢献することがやりがいになると私も含めてたくさんの人が感じたようです。また、就職に関しても、それを目標とせず新たなスタートにするという大川さんの話が印象に残った人が多かったようでした。